

9 番 大 野

皆さん、改めまして、おはようございます。

受付番号2番、議員番号9番、大野徹也でございます。

件名「(仮称)山北スマートIC周辺土地利用の整備効果は」。

過日、中日本高速道路は高松トンネル工事の遅れにより、「あと2年9か月くらい開通が遅れることになる」と明かした。町の新たな玄関口として、一刻も早い開通と開設が待たれるスマートインターチェンジは、町長が所信表明の2つ目の政策に掲げ、「スマートICを最大限に生かした政策」として、地元住民はもとより、山北町全体で期待をすところであるが、周辺土地利用構想でのスマートICの整備により、期待される効果の具現化は、国・県への要望活動や、関係機関などへの働きかけが必要と感じ、さきに示されたスマートIC周辺土地利用構想の中から以下の質問をする。

1. 「観光振興への寄与」として、山北町の主要観光施設へのアクセス性向上による観光入込客の増加、及び工業団地等へのアクセス性向上による新たな企業誘致の促進とある。国道246号線へのアクセス性向上策は。

2. 「救急医療サービスの向上」として、高度救命救急センターまでのアクセス性向上による救急医療体制の充実と、「災害時の代替ルートの確保」として、防災対策としての地域拠点形成とある。具体的な体制の充実と地域拠点の形成は。

3. 「広域的な地域活性化への期待」として、地域活動の連携によるさらなる地域振興とある。期待される地域振興は。

以上。

議 長 答弁願います。

町長。

町 長 それでは、大野徹也議員から「(仮称)山北スマートIC周辺土地利用の整備効果は」についての御質問をいただきました。

町が平成26年7月に策定した「新東名高速道路(仮称)山北スマートIC実施計画書」では、スマートICの設置により期待される整備効果として、「観光振興への寄与」、「救急医療サービスの向上」、「災害時の代替ルートの確保」、「工業団地等へのアクセス性の向上」、「広域的な地域活性化への期待」の5点を示しております。

町では、その整備効果なども踏まえた上で、令和2年3月に「（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想」を策定いたしました。

初めに、1点目の御質問の「『観光振興への寄与』として、山北町の主要観光施設へのアクセス性向上による観光入込客の増加、及び工業団地等へのアクセス性向上による新たな企業誘致の促進とある。国道246号へのアクセス性向上策については」についてであります。首都圏方面から本町の主要観光スポットである丹沢湖、中川温泉方面への主な利用経路については、東名高速道路大井松田ICから国道246号を經由してアクセスすることとなりますが、国道246号下り線は、現状でも休日などには、清水橋交差点付近を起点として向原地区まで渋滞が発生している状況であります。

丹沢湖から大井松田インターチェンジまでは、距離にして約20キロであります。が、（仮称）山北スマートICが整備された場合は、距離が短縮され、国道246号下り線の渋滞も回避することができ、アクセス性が大幅に向上すると考えられます。このことにより、町イベント開催時や観光シーズンには、首都圏方面からの観光客の増加が期待されております。

また、町内には、諸淵地区と平山地区の2か所に工業団地がありますが、新東名高速道路の工事完了後には、現在、民間事業者へ貸し付けている丸山地区町有地への企業誘致も検討しております。

この3か所から大井松田ICまでの平均距離は約10キロですが、（仮称）山北スマートICが整備された場合、距離が短縮されることで高速道路へのアクセス性が向上し、企業活動の活性化や新たな企業誘致の促進が期待されております。

（仮称）山北スマートICの計画交通量は、1日当たり約1,300台と推計されており、これが現在の国道246号の交通容量に具体的にどのような影響を与えるのか、現時点では不明であります。スマートIC開通後も、引き続き交通量などに注視し、必要に応じて国・県への要望活動について検討していきたいと考えております。

次に、2点目の御質問の「『救急医療サービスの向上』として、高度救命救急センターまでのアクセス性向上による救急医療体制の充実と、『災害時の代替ルートの確保』として、防災対策としての地域拠点の形成とある。具

体的な体制の充実と地域拠点の形成は」についてであります。丹沢湖周辺で救急事案が発生し、三次救急医療機関である東海大学医学部付属病院まで救急搬送する場合、現状では東名高速道路を利用しても、約40分以上の時間を要します。

(仮称)山北スマートICが整備された場合、これが短縮され、約30分で東海大学病院までの救急搬送が可能となり、緊急事案における救命率の向上が期待されております。

医療機関への救急搬送については、小田原市消防の救急隊員が、患者の状況などにより搬送する医療機関・搬送経路を判断することになりますが、引き続き、小田原市消防と緊密な連携を図ってまいります。

また、東名高速道路大井松田ICから御殿場ICの間は約26キロ、新東名高速道路新秦野ICから小山スマートICは約21キロとインターチェンジ間の距離が長いため、災害時の代替ルートの確保という面からも、(仮称)山北スマートICの整備効果が期待されております。

さらに、国道246号や東名高速道路が自然災害や事故により通行止めになった場合においても、町内に新東名高速道路とスマートICが整備されることにより、災害時のリダンダンシー強化につながることも、期待できると考えております。

(仮称)山北スマートIC周辺には「道の駅山北」がありますが、施設規模や立地条件などから考えて、拠点とすることは困難であると考えております。このため、スマートIC周辺の防災拠点については、旧清水小・中学校や、旧清水保育園の利活用を検討する中で考えてまいります。

次に、3点目の御質問の「『広域的な地域活性化への期待』として、地域活動の連携によるさらなる地域振興とある。期待される地域振興は」についてであります。 「(仮称)山北スマートIC周辺土地利用構想」では、スマートインターチェンジ周辺に新たな観光施設を整備するのではなく、「道の駅山北」、「オアシス公園」、「河内川ふれあいビレッジ」の既存3施設を再整備し、スマートIC周辺の地域振興につなげていくこととしております。

さらに、スマートICの設置により、本町へのアクセス性が飛躍的に向上

することから、三保地区をはじめとする様々な観光資源へ観光客を誘導することにより、本町全体の地域振興への波及効果も期待されております。

このような状況の中で、町では、本年度から神奈川県とネクスコ中日本・町関係課で構成する新たな会議体として、「（仮称）山北スマートIC開通に伴う山北町地域振興プロジェクト会議」を設置し、スマートインターチェンジ開通に伴う地域振興の具現化に向けた検討・調整を進めております。

具体的な方策につきましては、「施設整備部会」と「観光情報部会」の2部会を設置し、検討を重ねております。

今後の検討に当たっては、清水あり方研究会をはじめ、地元の皆様に情報提供し、御意見を伺いながら進め、地域振興を図っていきたいと考えております。

議 長 9番、大野徹也議員。

9番大野 ありがとうございます。ただいま、新東名高速道路並びにスマートIC開設の関係で、特にスマートICは町長の働きかけで、こちらのほうで開設が成るということをお聞きしてございまして、これは冒頭でも申し上げましたように、地元の住民はもとより、山北町全体で、大変期待をしているということでございます。

このことにつきまして、整備効果というものも、半面、検討をなされているのかという観点から御質問をさせていただきます。

まず、山北町の第5次総合計画の後期基本計画の分野別構想における位置づけとして、「（仮称）山北スマートIC周辺土地利用構想では、清水地区を中心としたエリアは新東名高速道路のスマートインターチェンジが整備されることで、交通環境が飛躍的に改善されることが期待されており、山北町の新しい産業・観光のゲートとして、道の駅を含めた周辺の土地利用の展開を図ります」とあります。この交通環境が飛躍的に改善されることが期待されるということは、どのようなことかということで、先ほど御回答の中で、専らこれは現東名を使った場合の、それに対して、飛躍的に交通環境が改善されるというふうな御回答かと思えます。

片や、清水地区にとりましては、スマートICから多くの車両が下りてくると、その起点になるということでございますので、その清水地区に対して

も、交通環境が飛躍的に改善されるということについて、お尋ねをいたします。

議 長 町長。

町 長 御案内のとおり、今のスマート I C が出来上がりますと、下りてきたところは、もう既に河内川のふれあいビレッジがあり、道の駅がありというような、下にオアシス公園があるというような立地条件になりますので。当然、そここのところは、まず一番に交通アクセスが、言ってみれば1分か2分でインターから行けるような理想的な場所になるというふうに思いますんで。当然、その立地条件からしても、そここのところに、やはり観光資源、あるいはまた情報を、そここのところに集中させるということは、当然、必要なことで、また、その効果が非常に顕著に出るのではないかなというふうに思っておりますけども、一方では、来られる方がーフインターということもございますので、東京・横浜方面あたりから来られる方が90%以上になるというふうに思っております。となりますと、やはりそれに対応できるような、例えば、いろいろなデジタル化も含めて、キャッシュレスとか、そういった様々なことが、清水地区の皆さんにもやっていただいて、一緒になって、来られる観光客をお迎えできれば、さらに飛躍的によくなるのではないかなというふうに思っております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 ありがとうございます。確かに、スマートインターまで行きますと、清水地区・三保地区・共和地区も含めてのことだと思いますが、すぐにスマートインターを通じて東京方面に行けるというその利便性は、交通環境が飛躍的に改善されるという意味合いかとは思いますが。

ただ、開通しました暁の、いわゆる交通量の関係も含みます、あるいは、お尋ねの中で、246号線へのアクセスの関係につきまして、お尋ねをしたいと思います。まず、スマートインターチェンジを利用される車両の1日当たりの交通量計画、先ほど、約1,300台というお答えでしたが、これは、上下線はどのような形になっているのかお尋ねいたします。

議 長 大野議員、今の答弁につきましては、ちょっと調査の上、後ほど回答させていただきます。大丈夫ですか。

企画総務課長。

企画総務課長

すみません、時間がかかりまして。

下りてくる車が700台で、高速道路に入る車が600台ということで、1,300台としております。

議長

大野徹也議員。

9 番 大 野

ありがとうございました。交通量計画では、1日当たり約1,300台で、上り線が約600台、下り線が約700台と推計されておるといふような御計画ということですが、現在、道の駅山北に立ち寄る方は、先ほど町長からも御案内ありましたように、東京、横浜、川崎方面の方々が大変多いということを知っております。その方々は、現在の東名大井松田ICを利用して来られますので、新東名のスマートICが開設しますと、私は推計以上の交通量になるかとちょっと心配をしております。

これは単純計算の話になりまして大変恐縮なんですけど、仮に700台の推計台数が下り線利用者車両として、行楽目的で一定時間の中で、例えば朝の8時から9時までの1時間に来町されたとします。仮定しますと、三保方面と山北中心市街地方面に、仮に350台ずつ、半分ずつ分かれたということで、単純計算では、1分当たり約6台という形の交通量になろうかと思っております。それが清水橋に向かいます。

中心市街地に向かっていくためには、清水橋に向かいますので、それが清水橋に向かいますと、その車の信号待ちの時間が、現在のシステムですと1分間待つと。で、国道246号線への進入は20秒間なんですね。で、この20秒間の間に通過できる台数というのは、おおよそ7台ぐらいであろうと。ちょっと上り坂になっている関係もございますし、もしかしたらもっと少ないかもしれません。まず、そのような形で推計しますと、6台ですから、単純計算で、地元住民の車1台しか通行できないというような状況になろうかと思っております。

これは、当然、累積的に歩留るということになりますので、行楽シーズン、土日・祭日、この辺には、やまなみ橋を渡った先の県道76号線の道の駅付近まで、何かイベントがありますと、常時そのような形にもなりますけども、それが信号待ちの交通渋滞で、常時懸念されるというふうな心配もございま

す。

ですので、その辺につきまして、このような状況ですと、清水橋を通過して買物、通勤通学、病院、御殿場線の利用など、いわゆる生活全般の維持・存続のために、三保・清水地区の住民は、その辺を利用しておるということで、清水橋の渋滞問題で生活圏が脅かされてしまいますが、そのことについて、町長の御見解をお聞かせ願います。

議
町

長 町長。

長 以前から新東名の連結許可をいただいたときから、清水橋のところの出入口については狭いというふうに、国交省のほうから言われております。

ですから、仮にそこをいずれ広げなきゃいけないというふうには思いますけど、広げたところで、国道246が2車線で今、運用しておりますから、もともとの4車線、上下2車線ずつのところは、当然、要望していかないと、当然、渋滞というのは避けられないというふうに思っておりますので、それについては、当然、国のほうに、これから要望していかなければいけないというふうには思っております。

それから、当然、清水地区の皆さんが、非常に、生活道路としてのものが困るというようなことだというふうに思っておりますので、それについての方策をいろいろ考えていかなきゃいけない。今、幸か不幸か、開通が2年ちょっと遅れるというような中で、やはりそういったような方法を、もう少し丁寧に、ほかの道路は迂回路としてできるかどうか、検討とか、そういったところをどういうふうにするのか。あるいは、また道の駅から上に上がったところのものを、向こうの共和地区のほうへ逃がせるのかどうか、そういったところも考えていかなければいけないというふうに思っています。

基本的には、開通時には、いきなり道の駅に来ないで、オアシス公園のほうに誘導しながら時間をなるべく使っていただくような方法を取れないかと。いきなりそこからどこかへ移動するという人もいますし、逆に、そこでしばらく情報なり、あるいは何かを楽しんでいただくような方法を取りながら、なるべく時間を分散できるような、そんなようなことができないかというふうに考えておりますので、その辺については、本当に喫緊の問題だというふうに思っておりますので、皆さんと一緒に考えていきたいというふうに思っ

ております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 町長の御見解をお聞かせいただきまして、町長も清水橋の渋滞の問題、これは非常に問題であるという、そういうことの御認識だと承知をいたしました。

引き続き、国道246号線の信号システムは、1分間の通行時間で、割合としては、静岡方面に向かう車両は1分間で、丹沢湖方面に10秒間のタイムラグの間で右折するようになっております。ですので、山北方面は50秒間で進行するというふうなことで、先ほどの単純計算にはなりませんけども、50秒で平均18台ぐらいしか通過できないという計算になりますので、山北方面へは直進車両が、多くても25台から30台というふうな内容になろうかと思えます。

この交通量の多さから、その辺が現在もネックになっているということで、令和2年3月に連携協定を締結し、これから、町長のお話ですと、災害時の応援協定を御検討されている御殿場市をはじめ、国道246号線の往来では、県境の地域住民の生活圏、さらに諸渕工業団地の物流への影響ということで、また、静岡方面からの観光客の人流も阻害されているというような状況かと思えます。

そこで、交通環境の飛躍的な改善には、スマートインターチェンジの整備と併せて、清水橋の交通渋滞問題を現在進行形の問題として、国や県への要望として、積極的に働きかけていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるとおり、開通時には、どうしても車両の渋滞が、今でもあるわけですから、それがさらに、この計算でいくと、700台のうち350台が、仮に、一遍に行かないにしてもどっちにしても行くわけですから、その渋滞が起こるだろうというふうに予測されますんで。そのためには、やはり、まず先ほど言いましたように、抜本的な246号線の複線化というものと、それから、今ある県道のほう、実際に生活道路として皆さんがお使いにできるような方法というのが、一つは考えられるんじゃないかと。

できるだけ一般車両を遠慮してもらって、地元車両というようなやり方で

できるのかどうか、また、擦れ違えるところが狭いですから、そのところを県のほうに、当然広げていただくなり、待避所を設けていただくというように必要ではないかというふうに思っておりますので、ぜひ、地域の皆さんと協力しながら、その対応をしていきたいというふうに思っておりますので、いろんな方法はあるとは思いますが、いずれにしても時間がかかる問題ですので、開通までにできることと、また、開通後やらなきゃいけないこととあるとは思いますが、それらについて、皆さんと協議してまいりたいというふうに思っております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 ありがとうございます。今、町長のほうでお話しされた県道というのは、いわゆる嵐回りの県道のことでございますよね。

ということで、それも一方法かと思えます。その際には、県の御協力を得るということで、それも一方法かと思えます。

国や県への要望には時間がかかるということも、それも確かにそのとおりにかと思えます。

ただ、町長、所信表明のスマートインターチェンジを最大限に活用した政策の2点目に、スマートインターチェンジを起点とした山北中心市街地への交通軸の形成ということで、道の駅山北を充実して、情報交流スペースに、効果的な情報発信ツールとして、デジタルサイネージを設置し、観光や交通案内をして、スマートインターを下りた来訪客を中心市街地に効果的に誘導するというお考えを示されております。

これは、県が予算化をして、令和5年度に設置するよう調整をしているというふうなお話かと思えますが、その辺につきましての調整はどのような形になっておりますでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長 この件につきましては、神奈川県県西土木事務所、あと、中日本高速道路株式会社、あと、本町の職員ですね。こちらで山北スマートIC開通に伴う山北町地域振興プロジェクト会議というものを本年7月に立ち上げまして、数回、もう会議を開いております。

で、現地も見ながら行っております、その中で、道の駅にデジタルサイ

ネージを設置しようということで、現在、その中でどういうものにしようか、あと、場所もどこにしようかというところまで話が進んでおります。ですから、機器についても、その大きさとまではまだ決まってないんですが、どういう機種をどこら辺につけましようまでは進んでおります。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 ありがとうございます。そういうことで、デジタルサイネージ、これは道の駅にとりまして、もしくは観光に関することに関しては、大変重要なツールかと思しますので、それが県の協力を得られるということで、その辺につきまして、できる限り効果的な情報発信ツールというふうな形にさせていただきたいと思えます。

つい先日、政府は地域活性化の5か年計画の中で、デジタル田園都市国家構想総合戦略の骨子案で、人口が減っても地域経済を維持するため、農林水産業や物流・観光業などのデジタル化を進めるという考えをお示しになられております。

観光業のデジタル化ということにつきまして、当然、デジタルサイネージというものでございますので、そのデジタル化の中で、何か具体的に取組をされてることはございますでしょうか。

議 長 商工観光課長。

商 工 観 光 課 長 まず、デジタル化と言えるかは何とも言えませんが、現在、町のほう、QRコードの活用をしながら、そこら辺で情報発信をしています。

例えば、ハイキングコースなどにしても、そのQRコードを読み込んだりして、町のホームページに飛ぶことができます。そちらのほうでコースの案内とか、実際に写真を用いた分かりやすいような案内とかを周知しているような状態でございます。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 QRコードを活用されるということで、来訪者がそのQRコードを読み込んで観光情報を得るというふうな部分で、あと、例えばスクリーンのほうで、どのような情報が流れるかという部分で、先ほど電気自動車、水素になるかどうかは別にしましても、電気自動車の蓄電の設備とかの情報案内ですとか、当然、山北町内の観光に関する部分の案内とかも含めてですが、そういった

ものに有効活用ができないかなというふうなことを、ぜひ御検討いただければというふうに思います。

山北町の観光産業に資するということですので、今後もデジタル田園都市国家構想推進交付金制度とかもございまして、その辺の活用も積極的に取り組んでいただければというふうに思います。

いずれにしても、スマートICを最大限に生かした政策として、2点目のスマートICを起点とした山北中心市街地への交通軸の形成策は、観光面では、先ほど申し上げましたように、河村城址や洒水の滝、蒸気機関車D52など、また、産業面では、主要な工業団地などのある山北中心市街地へのスムーズな交通の移動が不可欠であるというふうに思います。

清水橋の改修というのは、これを、いわゆる先行投資という形で捉えていただけないかなというふうなことで、また、中心市街地の観光客の増加ということで、東京・横浜方面などから物流面などでの優位性ということで、企業誘致での経済効果、これを町の財政負担としての費用対効果というふうな形でお考えいただけないかなというふうに思います。

また、町長は座談会でも、清水橋周辺の道路改修費用として、町の財政負担分がおよそ十数億円かかり、町の起債ということではなかなか難しいというのを御発言がございましたが、これは、国道であれば国の事業、県道であれば県の事業という形で、全額負担をしていただけないものなのかなということがございます。

これは上下水道整備と同じく、生活に欠かせないインフラ整備というふうな形で捉えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長

町長。

町 長

先ほどから、国道についても県道についても、みんな予測ですね。今の状態から増えてということになれば大渋滞が起こるということは、これはすぐに予測つくんですけども、一方では、当然、今、トラックなんか新東名がないために、途中で下りてつながってるわけですね。ですから、トラック、あの一部分は減るわけですね。新東名が開通したときには、トラックの1割か2割は、多分、246を使わないで行くというふうに思ってます。

それから、観光面でいきますと、やはり同じように、途中で大井松田を下

りた車なり、あるいは御殿場から向こうへ行く車が何台かあるというのも、ある程度減るといふふうには予測されます。

今はちょうど、先月ですか、旧東名の工事をやってるときに、やはり相当の混雑が出ましたけども、ですから、その減る部分と増える部分がどうなるか、どっちにしても混むことは間違いないというふうに思っておりますので、そういったような生活道路の確保というんですか、また、入り口がどうしても狭いというところは、もう最初から指摘を受けておりますので、そういったこともやっていきたいと。

それから、あと当然、洒水の滝とか、様々なところへ町内にそこから出ていくと、当然、時間帯によっては渋滞が起きてしまうということで、その時間の、混まないようなことを考えていかなければいけないというふうに思っておりますので、できるだけ今の中では、仮に道の駅でも、あるいは河内川のふれあいビレッジでも、今日は何をやるとか、分けたほうがいいんじゃないかというふうに思っております。年がら年中、同じことをそののところでやるよりも、今日はこういうものを売ってますよ、こういうのを食べられますというようなやり方で分けることによって、そのときに興味のある方に来ていただくというようなことで分散化していくとか、様々な方法を取って集中しないように、それでも土曜、日曜は、どうしても膨れるというふうに思いますが、そういったような様々な方法を取って、渋滞が少しでも緩和できるように、工夫していきたいというふうに思っておりますので、いずれにしても、私一人で解決できる問題ではございませんので、地域の皆さんと一緒に、その辺は考えていきたいというふうに思っております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 なかなか国や県への要望ということで、インフラの整備、これには、なかなか腰が重たいというふうなことで、町長の腰ではなくて、国・県の腰が重たいということだと思います。

ただ、要望ということは、やっぱり要望していただかないと先に進まないということかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

周辺土地利用構想に、山北中心市街地における土地利用の考え方として、「中心市街地から観光客をスマート I C へ誘導する町内の観光施設を周遊す

るルートについて検討する」とありまして、観光立町を目指す山北町においては、町内全域でも相乗効果ということも見込めますので、その辺のことも考慮していただきまして、町長のこれまでの町政運営の行動力と実行力で、ぜひとも清水橋の交通渋滞問題で、新東名高速道路工事と一体的に進める山北町の新たな玄関口となるスマート I C の工事で、画竜点睛を欠くことがないように、早期解決を実現していただきたいと思います。

また、町長の国交省への陳情の御努力で、現東名を利用した土砂運搬方法により、246号線のトラック運搬台数が緩和されているとのことで、これは大変、喜ばしいことかと思えます。御努力ありがとうございました。

町長、座談会の御意見で、清水橋の渋滞問題は246号線の問題、さらに、これは先ほどもお話もありましたが、瀬戸バイパス4車線化の関係とも絡んで、間違いなく対策をやらざるを得ない案件であると思うということをおっしゃっております。

清水・三保地区だけでなく、山北方面から静岡方面に向かう際にも、現在、宮地の信号機で岸地区からの渋滞ですとか樋口橋の信号機で、山北町内や平山地区からの渋滞が発生しておりまして、その起点は、先ほど冒頭にありましたように、起点は清水橋の渋滞ではなかろうかと思えます。

その辺のことも御考慮いただきまして、この渋滞問題、生活環境に支障を来している方々の実態も、既に町長はお分かりかと思えますので、ぜひとも問題の解決に向けて、さらなる国や県への働きかけをお願いしまして、次に移りたいと思います。

続きまして、救急医療においてスマート I C を活用した新東名高速道路による高度救命救急センターの、先ほど、これは東海大学病院というようなことで御指定があったかと思えますが、東海大学病院への救急搬送について、これも早期の開通が非常に待たれるところでございますが、緊急医療について、現在、ドクターヘリの臨時ヘリポート、ランデブーポイントですね、これにつきまして、清水・三保・共和地区への対応は、どのようになっているかお伺いしたいと思います。

議 長
地 域 防 災 課 長

地域防災課長。

ドクターヘリに限ることではございませんが、地域防災計画上のヘリコ

プターの離発着場が、今、9か所、指定がございます。そのうち2か所については、消防本部が指定するドクターヘリの発着場ということになっております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 すみません、具体的にはどこというふうな。

議 長 地域防災課長。

地 域 防 災 課 長 すみません、口が短くて。山北町のスポーツ広場が1か所目、もう1か所が中川スポーツ場という名前なんですけど、いわゆる昔のハイツ&ヴィラの横のグラウンドが指定されております。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 ありがとうございます。今、現状では、ドクターヘリの離発着に関しては、清水地区には該当するところがないというお話になろうかと思えます。

災害の関係では、おそらく旧清水小・中学校のグラウンドというふうなことが御指定かと思えますが、これはいわゆる急傾斜地の問題とかもございませぬ。そのような形の中で、ドクターヘリとの関係は、山北町は高齢化もますます深刻化しておりまして、中山間での生活の利便性が劣っておりまして、地理的条件での緊急医療サービスの提供が大変不利な状況にあります。

これは、地理的に不利な方々の医療サービスを向上させるために、緊急車両の搬送ルートについて、スマートICを活用されるということで、一刻を争う救命救急医療においては、早期の開通が待たれるところではございますが、緊急時においては想定外の事態に対処する、事前に想定内として備えるということも大変重要になろうかと思えます。

先日、丹沢湖マラソンで、飛騨クリニックの先生の適切な処置で、心肺蘇生が発生したという事案がございましたが、常にそのような形でうまくいくとは限りませぬ。

そこで提案でございますが、町長が清水地区の座談会で披瀝されました、スマートICの先の谷ヶ山ということだと思えますが、谷ヶと書いて、谷ヶ山ということかと思えます。そのトンネルの上下線出入口の上に、現在、平地がありまして、その活用ということでお話ございました。

現在、清水建設が事務所用地として利用している中日本高速道路用地でご

ございます。これは、完成後は、日本高速道路債務返済機構の所有になるというふう聞いております。

現在の工事予定では、高松山のトンネル工事が、残土が、ちょっと予想よりも出てきているというふうなお話も聞いておまして、その残土の盛土が計画されていると、その場所にですね。そのほかにも2か所ぐらいの残土を埋める計画があるということを伺ってますが、そこを進入路と一緒に、その跡地を整備して、ドクターヘリのヘリポートとして活用できないかなということをお検討していただいて。そうすれば、清水・三保・共和地区からの搬送者を、想定外の事態によって、例えば新東名高速道路で搬送ができませんとか、さらに一刻を争うという場合に、より一層、町民の安心・安全につながるとお思いますので、その辺のお考えはいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当然、その件についてはね、中日本さんのほうに相談してみようというふうに思いますけど、許可されれば一番、いいところだというふうに思いますけど、しかし、本線上のところに、ヘリを発着させていいかという問題が、多分、言われるというふうに思いますんで。決していい場所だから、多分オーケーだろうというようなことを、ちょっと私も言えませんので、中日本さんのほうに、そういうような事件、起きたときには、上のものについて、要望して、ぜひ、ヘリのほうも使えれば一番いいと思いますけど、なかなか、しかし、本線のところへどこからどういうふうに来て、万が一があったときに大変なことになっちゃうということを考えると、なかなかハードルが高いのではないかなというふうに思っております。

議 長 新東名対策室長。

新東名対策室長 ただいま御質問にありましたとおり、中日本高速道路秦野工事事務所によりますと、新東名谷ヶ山トンネル上部の平場については、議員さん、おっしゃるとおり、高松トンネルの発生土が増加しているということで、当初計画の平場ではなく、盛土構造になるという情報をいただいております。

また、町長も発言いたしました、トンネル上部は高速道路の直上に当たるため、ヘリコプターの離発着に伴うダウンウォッシュの走行車両への影響のほか、通行車両の急減速や、脇見運転の危険性もあることから、交通事故

の発生など、二次災害発生の危険性も危惧されますので、慎重に検討を進めることが必要であるということでした。

中日本から聞いた内容としては、以上です。

議 長 大野徹也議員。

9 番 大 野 ありがとうございます。中日本さんも、私も聞き取りをさせていただきまして、その中で当然、その辺のことが大変難しいという、その辺の前提に立って、今回、このお話をさせていただいております。

中日本高速道路の方からの現在の計画ですね、盛土をする際に、構造物なしで盛土をしていくと、事前に盛土をするというふうな計画のようです。

仮に、囲いのような構造物をつくりまして、そこに、これは残土の量にもよりますが、それを平場ができるようになりますと、臨時ヘリポートに必要な40メートル真四角の平地を確保することは不可能な話ではないというふうなお話でした。

ただし、これは当然、その場合に、構造物の建設費用の問題もございます。億にはならないけれども、数千万というふうなお答えでした。その辺の費用負担の問題と、中日本高速道路をはじめ、国への指導許可、先ほどもお話がございましたが、トンネルの真上ということもございますので、その辺もちょっと施しが必要なのかなと、施策が必要なのかなということにはなろうかと思いますが、これ、先ほども言いましたように、完成を待ってはいなかなか進まないというふうな話になろうかと思っておりますので。聞いたところによりますと、近々、中日本高速道路さんの管理する道路、それから、町が管理する道路の区分けの話合いがあるということをお聞きしてますので、その際に、その時機を捉えて、ぜひとも強力でプッシュをしていただけないかなというふうに考えております。

先ほど、高速道路から実際に入るのは、こういった形で入るのかということとは、当然、緊急車両というふうな扱いの中で、例えば救急車が現在は静岡方面にも緊急車両として向かえるような、そういう出入口がございます。

今、私が申しあげました進入路のところは、その下に中日本のほうで電気設備を設けるということで、その道路は残ると。そこにはゲートがありますので、その通行に関しての、ちょっと一工夫というようなことが、当然、あ

ろうかと思いますが、いずれにしましても、緊急車両という形の中で、何とか進めていただけないかなというふうに思います。

それと、次に、東海大学病院が運用しておりますドクターヘリというのが、狭い場所でも離着陸ができるような小型機というふうなことで、その辺が中心に使用しているということですので、その場合に、平地の面積が40メートル真四角よりも小さくて済むのではないかなというふうなこともございますので、その辺の基準も検証していただきながら、救急医療体制のさらなる充実の観点から、町民の安心・安全につながる行政案件として、ぜひとも進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 とにかく、ドクターヘリについては、どこかに、やはりそういったものを設置したいというふうに思っています。

例えば、清水小・中のところがどけば、あそこは危険はありますけど、できないかとか、オアシス公園はどうだとか、様々なところで、せっかくだから、そういったようなドクターヘリが緊急的に発着できるようなところが、どこか1か所、清水地区にも設置したいと。

それから、当然、緊急車両については、今、山北の間が10キロ以上ありますから、その中で、東名の工事が起きたときには、途中から入れるように、何か2か所ぐらい緊急車両が入れるようなところをつくるそうでございます。そういったところに、果たして東名の工事じゃない、事故でないときに、果たして、そういったことが使えるのか使えないのかも、例えば共和地区で起きたときに、共和からずっと入れるとか、そういったことが可能かどうか、そういったところも、中日本と今後そういった場所がはっきりしたところでやっていきたいというふうに思っています。

一応、中日本さんとは緊急の災害時の電気の配電であるとか、あるいはまた、そういうような火山噴火とか、大地震のときに使えるということは、大体、承諾、得てますけど、一般のときに、そこが使えるかということは、ちょっと今のところ、無理だというふうに思っていますので、そういったことは、これからも中日本さんと協議しながらやっていきたいというふうに思っています。

議 長 大野議員、制限時間の関係もございますので、要項をまとめて再質問をお願いします。

大野議員。

9 番 大 野 それでは、ちょっと時間の関係ということでございますので、まず、災害時の関係でございますけども、先ほど、防災拠点のほうで、清水小・中学校、清水保育園に形成するというふうな御回答でしたが、先ほど申し上げましたように、清水小・中学校は急傾斜地でございます。ですから、これを防災関係についても、私が御提案しましたヘリポートですね、その箇所を使えないかという提案です。

そこは、近隣の小山スマートインターチェンジのパーキングエリアですとか、丹沢秦野スマートインターのサービスエリア、この辺は国が防災関係に大変力を注いでいるということで、ヘリポートが設置される形で工事が進められております。ですので、ヘリポートは防災対策として、地域拠点としての活用ができるんじゃないかと。

だから、新東名高速道路で国からのプッシュ型支援物資を搬送するという場合に、それをそこで受け取りまして、搬送していただいたもの、これ、緊急車両ですから、当然、大丈夫ですが、それを集配の中継拠点にするとか、あるいは、現在、小田原市消防本部でも新しい消防ツールとして、ドローンが配備されてるということを聞いております。

ですから、そのドローンを使って、山間地域での山野調査の拠点としたり、現在、改正航空法が施行されたばかりということで、自動ドローンが運行されることになりますので、近い将来に、各段に進化した自動ドローンで、例えば災害の支援物資の近隣被災地への配給拠点に活用する、また、その辺の経験を生かしまして、マンパワーが必要とされないという形になりますけども、災害時応援協定を結んでる市町村でも、そういったもので活用できないかなというふうに考えます。

さらに、防災対策の拠点の関連ですが、現在、オアシス公園はスマートインターチェンジの土地周辺の利用構想では、どのような位置づけになっておりますでしょうか。

議 長 企画総務課長。

企画総務課長

オアシス公園なんです、議員、言われるとおり、会議で「山北スマートIC開通に伴う山北町地域振興プロジェクト会議」、こちらで検討させていただきます。

その中で、現時点で判明している課題があります。大きく分けて3点あるんですが、一つが河川法における河川区域に該当し、一定の行為をする際には、河川管理者である県との協議が必要となる。今後、新たな申請や変更を行う場合は、下記の判断に当たり、地盤の高さや化石について、確認を要すると。2つ目として、現在、電気・水道施設がないため、整備内容によっては実現が非常に困難、難しいと。で、3つ目が、新東名高速道路建設工事の関係で敷地の一部が利用されているため、工事完了による工事事業者撤退時期を見据えた整備計画を立てる必要があると。今、この3点が課題ということで、整理されてます。

議長

大野徹也議員。

9番大野

ありがとうございます。先ほど申しましたように、清水小・中学校のグラウンドは急傾斜地ということで、今、お聞きしましたオアシス公園は、河川法の制限があると。防災対策の拠点としては、地震・雨水が、このどちらも災害時には不適切な場所というふうに、そういうことだと思います。

オアシス公園は河川区域であるというお話で、県の許可が必要だと、河川法の占有許可を受けて、駐車場として主に利活用されるということで、提案でございますが、箱根町など全国的に観光地で実施しておりますパークアンドライド、こちらの丹沢湖方面への発着として、富士急湘南バスとタイアップしまして、玄倉方面のユースン溪谷に行かれる方や、中川方面の檜洞丸に行かれる登山客や、ぶなの湯などの日帰り温泉客の発着場とすると。停留所にするということで、残念ながら、9月で運行が終了しました丹沢秦野登山号の名前で、表丹沢の登山客の足として、東京駅と秦野丹沢登山口大倉間を運行したJR高速バスに働きかけて、西丹沢の登山者を引き入れるという、そういうふうな拠点として活用できないかなということで……。

議長

大野議員、時間がもう来てますので、簡潔にまとめて再質問、お願いします。

9番大野

分かりました。

ということで、その辺の活用を図っていただきたいということと。3点目の三保地区からの広域幹線道路の件でお聞きしたかったんですが、これは私のほうでお聞きできませんので、一応、町長、所信表明でスマートインターチェンジを拠点とした広域幹線道路の整備計画については、スマートインターチェンジが整備されることによって期待される効果の一つに、自治体を越えた広域的な地域活性化活動による地域振興が挙げられるとありますが、三保地区方面から町域を越える道路が整備されていないということで、地域振興や防災上の観点から懸案事項となっております。

この辺のことを踏まえて、町長、御努力いただいておりますけども、広域的な連携の足がかりというふうな中で、山北町が実施するスマートインター周辺土地……。

議 長 大野議員、もう時間が来てますので、ここで質問を打ち切りたいと思いますが、最後、今の関係で、町側のほうから答弁がありますから、これを最後に終わりいたします。

町 長 おっしゃるように、幹線道路についても行き止まりということですので、今、一生懸命、県のほうと協議しておりますので、そういった様々な観光面だけでなく防災面、様々なことを検討してまいりたいと思いますので、ぜひ、皆さんのお力も拝借したいというふうに思っております。